

特2 ギマツ雑種F₁優良系統の初期成長性について

(研) 森林研究・整備機構森林総合研究所
林木育種センター北海道育種場
花岡 創

研究の背景・目的



ギマツ雑種F₁とは：
・母樹をギマツ、花粉親をカラマツとする雑種第一代 (F₁)
・ギマツの耐鼠性やカラマツ並みの成長性を持つ優良樹種

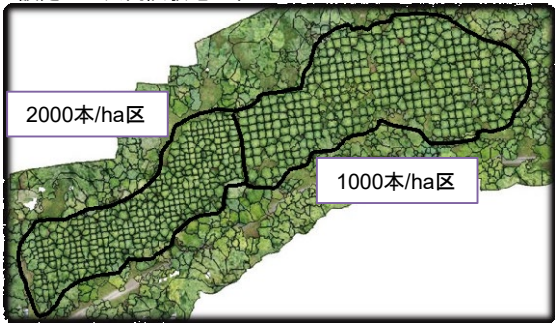
ギマツ雑種F₁の優良系統：
・北のパイオニア1号 ・中標津4号×諏訪16号
・グリーンム ・クリーンラーチ

ギマツ雑種F₁の活用にあたって：
・植栽密度によって成長パターンに違いはあるか？
・系統間で成長パターンに違いはあるか？
・挿し木苗と実生苗の成長に差はあるか？
・苗木の初期サイズの影響は？

写真1:12年次の試験地の様子と間伐木の丸太 優良系統のみで構成された林分で検証しました。

研究の内容・成果

試験地：
ギマツ雑種F₁省力化モデル展示林
(石狩森林管理署 5275林班)
石狩森林管理署及び道総研林業試験場との3者で
設定した共同試験地です



データ解析：
初期成長の指標として、10年次までの
樹高と胸高直径データを解析しました。

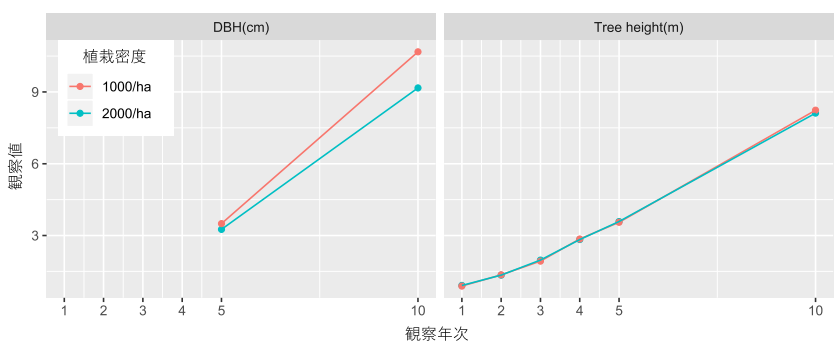


写真2: 12年次の試験地の一部の様子と推定した樹冠 図1: それぞれの植栽密度区における胸高直径と樹高平均値の推移

- ・植栽密度区間で成長に違いがあるか？ → 10年次の胸高直径にのみ差が見られました → 1000本/ha区で+2cm程度 (図1)
- ・系統間で成長パターンに違いは？ → 全ての系統が同様の成長率を示しました
- ・挿し木苗と実生苗の成長に差は？ → 差はほとんど見られませんでした
- ・苗木の初期サイズの影響は？ → 初期サイズが大きいほど10年次にも大きい傾向でした

今後の展開

2019年(12年次)に、2000本/ha区を中心に間伐を実施
→ 今後の成長の推移を検証します。
→ 間伐木を用いて材質に関する調査を進めます。

本研究は農林水産技術会議戦略的プロジェクト研究推進事業、「成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発」の一部として取り組みました。